

# 神宮の敗戦糧に

# 投手力と小技を強化

2018年11月11日、東北王者として第49回明治神宮大会に出場した八学光星は初戦を突破したが、準々決勝で四国代表の高松商(香川)に6-9で競り負けた。

12安打を放ったものの、バントや走塁のミスで好機を逸した。先発の下山は二回途中4失点で降板。救援した後藤も連投の疲労で本調子には遠く追加点を許した。県大会、東北大会で自信を深めたナインだったが、全国は甘くなかった。「質の低い野球をやっていたら勝てない」。仲井監督は厳しく語った。

## 光星 狙うは日本一 平成最後 センバツ



仲井監督の言葉を聞く選手たち。それぞれ課題と向き合った冬を越え、初戦に臨む。22日午後、神戸市

の課題と向き合った。高松商戦後、武岡はバントの確実性を増すため構えから見直した。これまでの打撃練習でもあまり取り入れてこなかったバ

の課題と向き合った。高松商戦後、武岡はバントの確実性を増すため構えから見直した。これまでの打撃練習でもあまり取り入れてこなかったバ

26日の初戦の相手は広島県の強豪・広陵。最速148km/hの右腕河野、三振が取れる左腕石原や森ら投手層の厚さが武器だ。超高校級の投手陣に

ムを固めた。

「秋は後藤に頼っていたが、投手全体のレベルが上がった」と武岡。左腕・横山は自らの特徴を生かし、打者が打ちづら